

2020年6月

# 県内企業の景況意識調査

## (第173回)

共同調査

大銀経済経営研究所

大分信用金庫

大分県産業創造機構

\* 2020年 4～6月期〈Ⅱ期〉の実績見込み

\* 2020年 7～9月期〈Ⅲ期〉の見通し

## 新型コロナウイルス感染症の影響で急速に悪化

今期（2020年4～6月期〈Ⅱ期〉）の業況判断BSIは、前期比42.5ポイント低下の▲66.5と、リーマン・ショック後の不況で沈んだ2009年Ⅰ期（▲82.3）以来約11年ぶりの低水準となった。業種別のBSIは、『建設業』『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の6業種全てで悪化した。

4月に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けて緊急事態宣言が発令されたことを受け、外出の自粛をはじめ、あらゆる経済活動が抑制されたことから幅広い業種で業況が悪化した。

来期（2020年7～9月期〈Ⅲ期〉）の業況判断BSIは、今期比2.9ポイント上昇の▲63.6とわずかに改善する見通しである。業種別のBSIは、『製造業』『金融・不動産業』『サービス業』の3業種で改善し、『建設業』『運輸業』の2業種で悪化する見通しである。

\* 2020年 4～6月期〈Ⅱ期〉の実績見込み

製造業……………2期ぶりに悪化

卸・小売業……………卸売業・小売業ともに悪化

建設業……………2期ぶりに悪化

サービス業……………2期連続で悪化

## 新型コロナウイルス感染症の影響で急速に悪化

### ◎業況判断

【今期】(2020年4～6月期〈Ⅱ期〉)

業況判断BSI：▲66.5 (前期比▲42.5㊦)

＜内訳＞

- ・よくなった 2.9% (前期比▲7.1㊦)
- ・悪くなった 69.4% (前期比+35.4㊦)
- ・変わらない 27.8% (前期比▲28.2㊦)

＜業種別＞

- ・前期比悪化：6業種全て (『建設業』『製造業』『卸・小売業』『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』)

業況判断BSIは前期比42.5ポイント低下の▲66.5と、リーマン・ショック後の不況で沈んだ2009年Ⅰ期(▲82.3)以来約11年ぶりの低水準となった。4月に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けて緊急事態宣言が発令されたことを受け、外出の自粛をはじめ、あらゆる経済活動が抑制されたことから幅広い業種で業況が悪化した。

【来期】(2020年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：▲63.6 (今期比+2.9㊦)

＜内訳＞

- ・よくなる 2.4% (今期比▲0.5㊦)
- ・悪くなる 66.0% (今期比▲3.4㊦)
- ・変わらない 31.6% (今期比+3.8㊦)

＜業種別＞

- ・今期比改善：3業種 (『製造業』『金融・不動産業』『サービス業』)
- ・今期比悪化：2業種 (『建設業』『運輸業』)
- ・今期比不変：1業種 (『卸・小売業』)

### ◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲69.3 (前期比▲41.2㊦)

6業種全て悪化

収益BSI：▲68.5 (前期比▲45.4㊦)

6業種全て悪化

【来期】

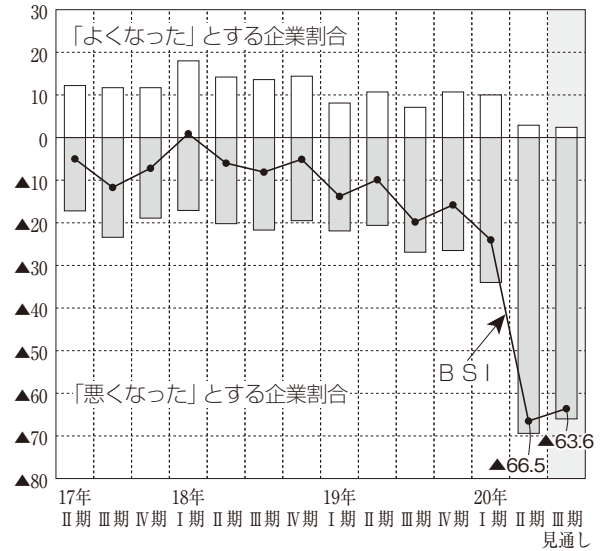
売上高BSI：▲59.3 (今期比+10.0㊦)

5業種で改善見通し

収益BSI：▲60.9 (今期比+7.6㊦)

4業種で改善見通し

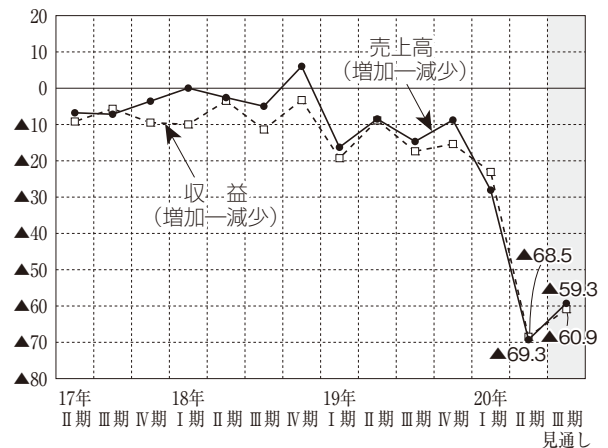
業況判断 ( B S I )



業況判断指数内訳 ( B S I )

	2019年 Ⅳ期	2020年 Ⅰ期	2020年 Ⅱ期	2020年 Ⅲ期見通し
建設業	0.0	7.7	▲42.8	▲64.3
製造業	▲22.1	▲21.5	▲67.2	▲56.7
卸・小売業	▲25.9	▲41.2	▲67.8	▲67.8
金融・不動産業	▲12.5	▲12.5	▲100.0	▲71.4
運輸業	5.6	▲25.0	▲46.6	▲60.0
サービス業	▲12.9	▲30.3	▲83.3	▲69.4
全産業	▲15.8	▲24.0	▲66.5	▲63.6

売上高と収益 ( B S I )



## ◎所定外労働時間と雇用者数の現状

### 【今期】

所定外労働時間 B S I : ▲37.5 (前期比▲22.8ポイント)  
5業種で低下

雇用者数の現状 B S I : ▲8.8 (前期比+27.7ポイント)  
6業種全て上昇

### 【来期】

所定外労働時間 B S I : ▲34.8 (今期比+ 2.7ポイント)

## ◎経営上の問題点

- 1位:「売上不振」(53.7%)
- 2位:「人手不足」(10.2%)
- 3位:「人材不足」(8.8%)
- 4位:「競争激化」(7.3%)
- 5位:「単価低下」(4.4%)

業種別にみると、「売上不振」と回答した割合は『サービス業』で62.9%、『卸・小売業』で62.5%と特に高い。「人手不足」は『運輸業』で33.3%と最も高く、『建設業』でも26.9%と高くなっている。

前回調査と比べると、「売上不振」が13.5ポイント上昇し、2位以下との差が大きくなっている。

## ◎設備投資実施割合

### 【今期】

実施企業の割合: 29.7% (前期比▲0.8ポイント)  
4業種で減少

<投資目的>

- 1位:「補修・更新」(57.4%)
- 2位:「生産能力の拡大・売上増加」(13.1%)
- 3位:「合理化・省力化」(8.2%)

### 【来期】

実施予定企業の割合: 23.9% (今期比▲5.8ポイント)  
3業種で減少見通し

<投資目的>

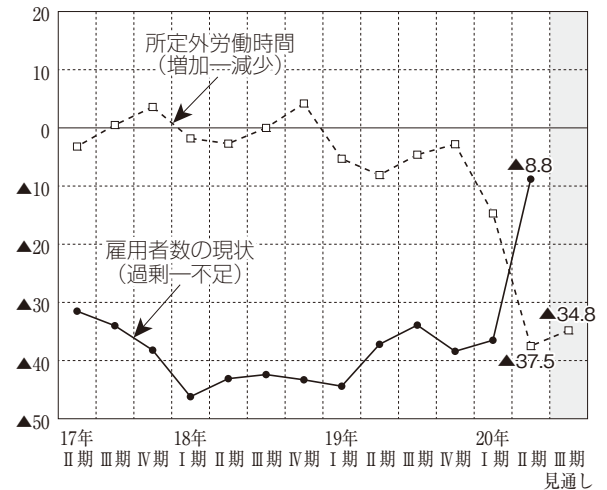
- 1位:「補修・更新」(68.0%)
- 2位:「合理化・省力化」(12.0%)
- 3位:「生産能力の拡大・売上増加」(6.0%)
- 3位:「事業転換・経営多角化」(6.0%)

## ◎「新型コロナウイルスの影響」について

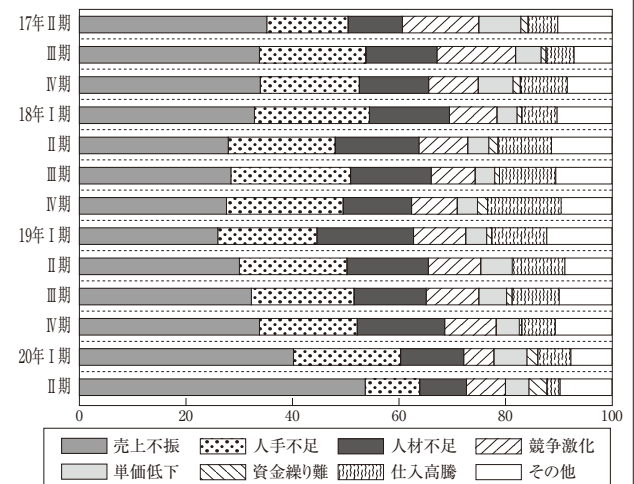
今回の調査において、「新型コロナウイルスの影響」について尋ねたところ、「大いにマイナスの影響がある」が58.5%、「ややマイナスの影響がある」が30.7%、「影響はない」が4.4%、「ややプラスの影響がある」が2.0%、「大いにプラスの影響がある」が1.5%となった。

業種別でも、6業種全てで8割超がマイナスの影響があると回答した。「大いにマイナスの影響がある」に限ると、最も多い「サービス業」で約8割、最も低い「建設業」で約3割となっており、マイナス影響の度合いは業種間で差があった。

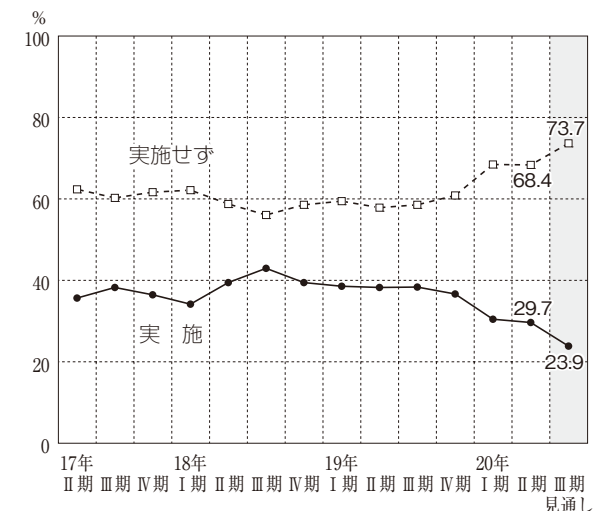
所定外労働時間と雇用者数の現状 ( B S I )



経営上の問題点 (%)



設備投資実施割合



## 2期ぶりに悪化

### ◎業況判断

【今期】(2020年4～6月期〈Ⅱ期〉)

業況判断BSI：▲67.2 (前期比▲45.7㊦)

＜内訳＞

- ・よくなった 1.5% (前期比▲9.3㊦)
- ・悪くなった 68.7% (前期比+36.4㊦)
- ・変わらない 29.9% (前期比▲27.0㊦)

＜業種別＞

- ・前期比改善：なし
- ・前期比悪化：7業種（「化学・石油」「鉄・非鉄・金属」「機械」「食料品」「木材・家具」「印刷・出版」「その他」）
- ・前期比不変：1業種（「窯業・土石」）

新型コロナウイルス感染症の影響で個人や企業の消費活動が大きく制限されたことに伴い、多くの製造分野において売上高の減少と業況の悪化がみられている。

【来期】(2020年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI：▲56.7 (今期比+10.5㊦)

＜内訳＞

- ・よくなる 4.5% (今期比+3.0㊦)
- ・悪くなる 61.2% (今期比▲7.5㊦)
- ・変わらない 34.3% (今期比+4.4㊦)

＜業種別＞

- ・今期比改善：5業種（「鉄・非鉄・金属」「機械」「木材・家具」「印刷・出版」「その他」）
- ・今期比悪化：1業種（「窯業・土石」）
- ・今期比不変：2業種（「化学・石油」「食料品」）

全体の景況感は今期よりも改善する予想となっているものの、その多くは新型コロナウイルス感染症の先行きに左右されるところが大きく、不透明な状況が続くと考えられる。

### ◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI：▲61.2 (前期比▲36.2㊦)

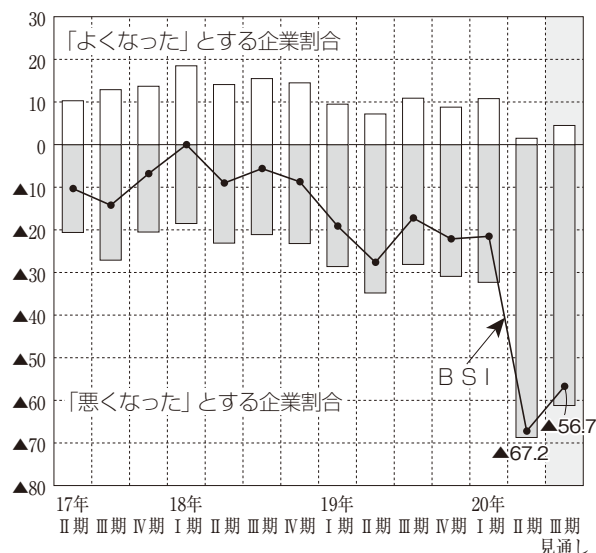
収益BSI：▲68.6 (前期比▲45.1㊦)

【来期】

売上高BSI：▲52.2 (今期比+9.0㊦)

収益BSI：▲52.2 (今期比+16.4㊦)

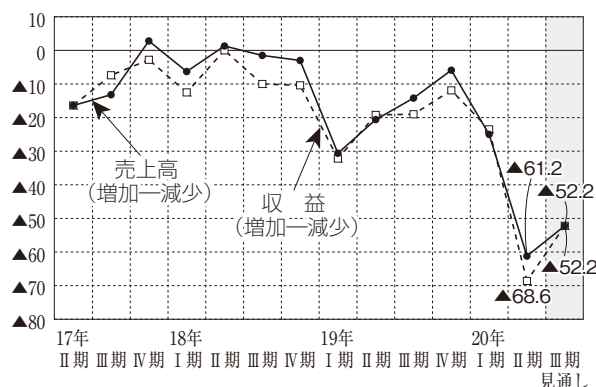
業況判断 (BSI)



業況判断指数内訳 (BSI)

	2019年 Ⅳ期	2020年 Ⅰ期	2020年 Ⅱ期	2020年 Ⅲ期見通し
化学・石油	▲16.7	▲16.7	▲20.0	▲20.0
鉄・非鉄・金属	▲22.2	42.9	▲66.7	▲33.3
機 械	▲30.0	▲26.3	▲68.4	▲52.6
食 料 品	▲16.7	0.0	▲63.6	▲63.6
木材・家具	▲60.0	▲88.9	▲100.0	▲87.5
印刷・出版	▲20.0	▲33.3	▲100.0	▲66.7
窯業・土石	0.0	0.0	0.0	▲75.0
そ の 他	0.0	▲14.3	▲75.0	▲50.0
製 造 業	▲22.1	▲21.5	▲67.2	▲56.7

売上高と収益 (BSI)



## 卸売業・小売業ともに悪化

## ◎業況判断

【今期】(2020年4～6月期〈Ⅱ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI : ▲72.0 (前期比▲22.0㊦)

&lt;内訳&gt;

- ・よくなった 0.0% (前期比± 0.0㊦)
- ・悪くなった 72.0% (前期比+22.0㊦)
- ・変わらない 28.0% (前期比▲22.0㊦)

『小売業』

業況判断BSI : ▲64.5 (前期比▲28.1㊦)

&lt;内訳&gt;

- ・よくなった 9.7% (前期比+ 0.6㊦)
- ・悪くなった 74.2% (前期比+28.7㊦)
- ・変わらない 16.1% (前期比▲29.4㊦)

外出自粛や催事の中止等で需要が減少し、卸売業、小売業ともに全体として業況が悪化した。一方、巣ごもり消費の拡大により、食品スーパーなどごく一部では業況の改善もみられた。

【来期】(2020年7～9月期〈Ⅲ期〉)

『卸売業』

業況判断BSI : ▲68.0 (今期比+ 4.0㊦)

『小売業』

業況判断BSI : ▲67.7 (今期比▲ 3.2㊦)

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、先行きを不安視する声が多くみられた。

## ◎卸売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲76.0 (前期比▲14.9㊦)

収益BSI : ▲76.0 (前期比▲ 9.3㊦)

【来期】

売上高BSI : ▲64.0 (今期比+12.0㊦)

収益BSI : ▲68.0 (今期比+ 8.0㊦)

## ◎小売業：売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲70.0 (前期比▲21.6㊦)

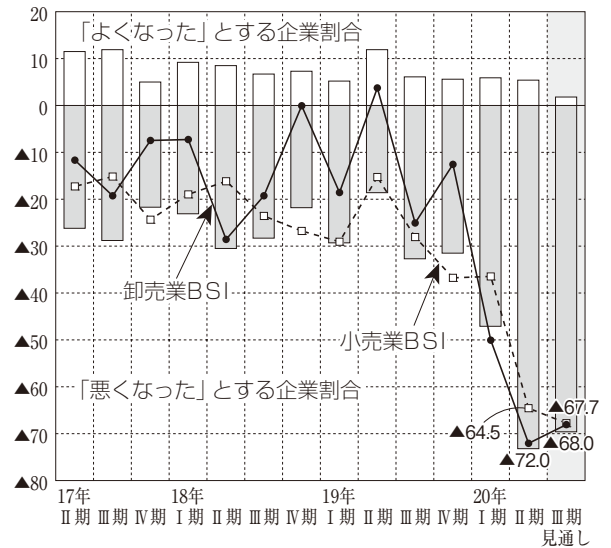
収益BSI : ▲63.3 (前期比▲30.0㊦)

【来期】

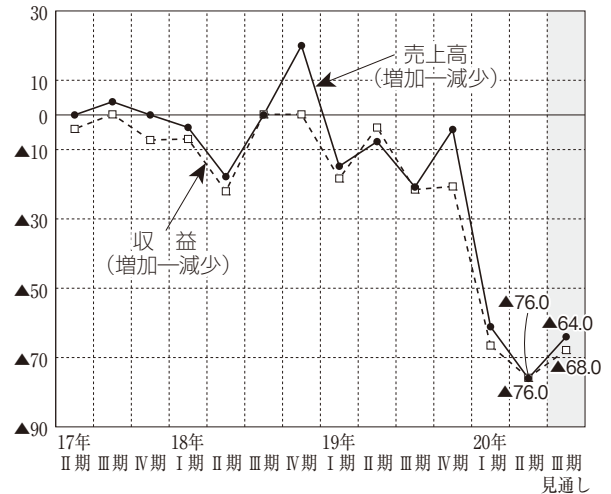
売上高BSI : ▲70.0 (今期比± 0.0㊦)

収益BSI : ▲66.7 (今期比▲ 3.4㊦)

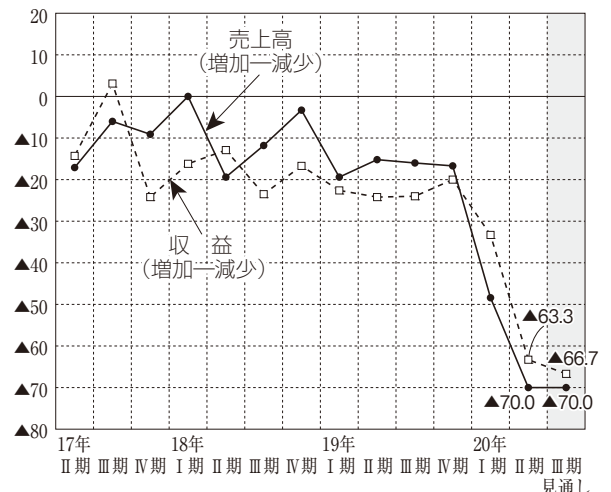
業況判断 ( B S I )



【卸売業】 売上高と収益 ( B S I )



【小売業】 売上高と収益 ( B S I )



## 2期ぶりに悪化

### ◎業況判断

【今期】(2020年4～6月期〈Ⅱ期〉)

業況判断BSI : ▲42.8 (前期比▲50.5㊦)

<内訳>

- ・よくなった 3.6% (前期比▲15.6㊦)
- ・悪くなった 46.4% (前期比+34.9㊦)
- ・変わらない 50.0% (前期比▲19.2㊦)

今期の業況判断BSIは前期から大幅に悪化し、マイナス水準に転じた。住宅設備メーカーなどで一時的に受注停止や納期遅れがみられたほか、現場の工事が中止・中断されたことなどが影響したものと考えられる。

【来期】(2020年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI : ▲64.3 (今期比▲21.5㊦)

<内訳>

- ・よくなる 0.0% (今期比▲3.6㊦)
- ・悪くなる 64.3% (今期比+17.9㊦)
- ・変わらない 35.7% (今期比▲14.3㊦)

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う営業活動の自粛や設備投資の先送りなどから工事発注数の減少が予想され、引き続き厳しい見通しとなっている。

### ◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲51.9 (前期比▲59.6㊦)

収益BSI : ▲44.4 (前期比▲55.9㊦)

【来期】

売上高BSI : ▲51.9 (今期比±0.0㊦)

収益BSI : ▲59.3 (今期比▲14.9㊦)

### ◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

所定外労働時間BSI : ▲33.3 (前期比▲49.3㊦)

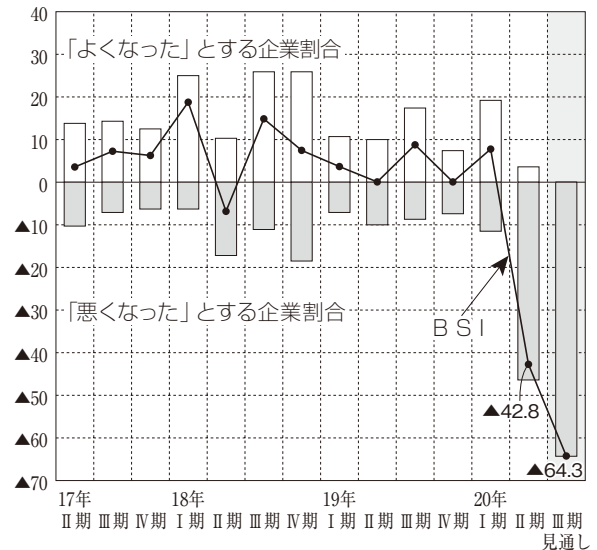
雇用者数の現状BSI : ▲48.1 (前期比+7.9㊦)

雇用者数を「過剰」と回答した企業はなく、人手不足は常態化している。一方、所定外労働時間は前期と比べて大幅に減少した。

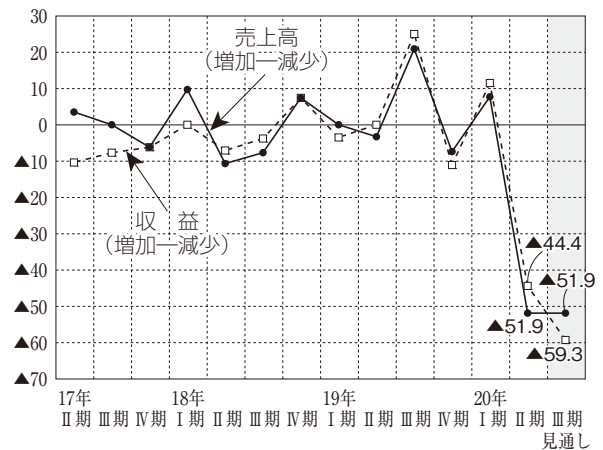
【来期】

所定外労働時間BSI : ▲37.0 (今期比▲3.7㊦)

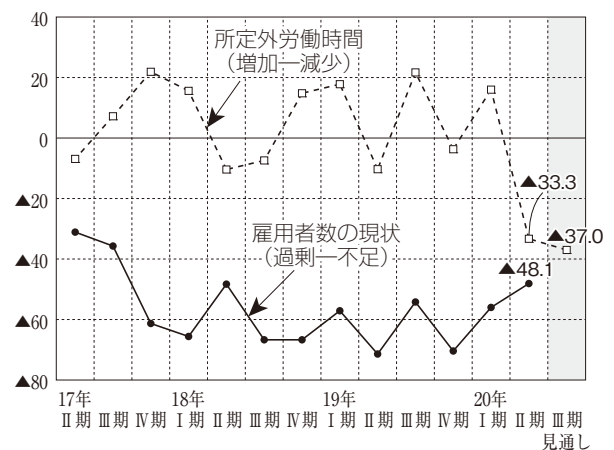
業況判断 (BSI)



売上高と収益 (BSI)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (BSI)



## 2期連続で悪化

### ◎業況判断

【今期】(2020年4～6月期〈Ⅱ期〉)

業況判断BSI : ▲83.3 (前期比▲53.0ポイント)

＜内訳＞

- ・よくなった 0.0% (前期比▲6.1ポイント)
- ・悪くなった 83.3% (前期比+46.9ポイント)
- ・変わらない 16.7% (前期比▲40.9ポイント)

サービス業のうち観光関連の15社では、すべての企業が「悪くなった」と回答した(前期比64.3ポイント増)。観光関連以外(21社)では、「悪くなった」と回答した企業が71.4%、「よくなった」と回答した企業は無かった。政府の緊急事態宣言を受け、宿泊施設やスポーツ関連施設、美容室、飲食店など多くの店舗で休業や営業時間の短縮を余儀なくされた。特に、多くの人が集まる観光関連施設においては利用客が大きく減少し、業況が著しく悪化した。

【来期】(2020年7～9月期〈Ⅲ期〉)

業況判断BSI : ▲69.4 (今期比+13.9ポイント)

＜内訳＞

- ・よくなる 2.8% (今期比+2.8ポイント)
- ・悪くなる 72.2% (今期比▲11.1ポイント)
- ・変わらない 25.0% (今期比+8.3ポイント)

### ◎売上高と収益

【今期】

売上高BSI : ▲94.1 (前期比▲60.7ポイント)

収益BSI : ▲88.6 (前期比▲67.4ポイント)

【来期】

売上高BSI : ▲65.7 (今期比+28.4ポイント)

収益BSI : ▲69.4 (今期比+19.2ポイント)

### ◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】

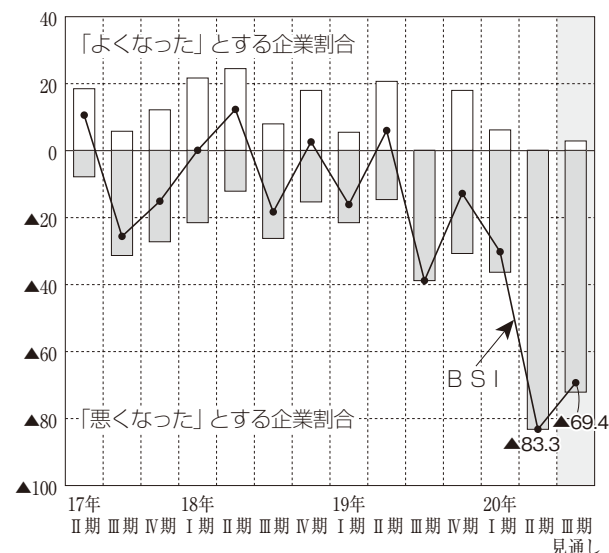
所定外労働時間BSI : ▲57.6 (前期比▲35.7ポイント)

雇用者数の現状BSI : ▲8.6 (前期比+41.4ポイント)

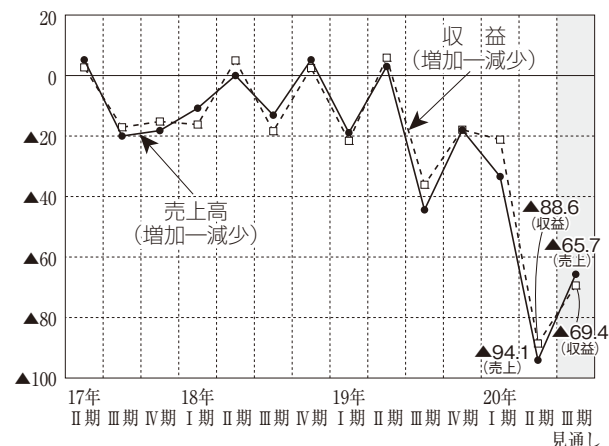
【来期】

所定外労働時間BSI : ▲41.2 (今期比+16.4ポイント)

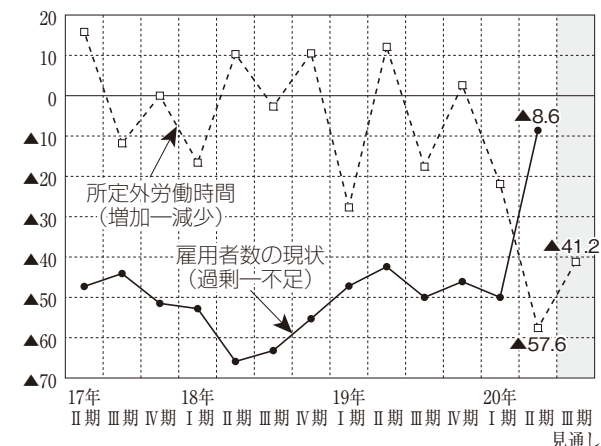
業況判断 (BSI)



売上高と収益 (BSI)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (BSI)



## BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①〔よくなる〕+〔変わらない〕+〔悪くなる〕=100%とする

②〔変わらない〕の回答分を除く

③  $BSI = [よくなる] - [悪くなる]$

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

### 調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調査時点 2020年5月20日

◎調査の内容

- ・自社の景況の実績と見通し
- ・売上高と収益の実績と見通し
- ・設備投資実施割合
- ・経営上の問題点など

◎調査対象

- ・県内に本社または出先事業所を有する企業460社

◎回答企業数 209社

・回答率 45.4%

・規模別割合

資本金1千万円未満・個人	7.7%
資本金1千万円～1億円未満	67.9%
資本金1億円以上	14.4%
無回答	10.0%